

～多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために～

2018 年 12 月

KSKQ ファースト・ラン NO.108

箕面百景 市役所近くのお地藏さん



目次

■特集 さんかくひろばの今

・放課後等デイサービスの活動 2

・地域交流センターの取り組み 5

■新企画 職員インタビュー 7

■カエルのうた 9

■パンのみみ 10

■事業紹介・会員募集 11

さんかくひろばの今

放課後等デイサービスってどんなところ？

放課後等デイサービスは、児童福祉法第6条の2の2第4項の規定に基づき、
学校（幼稚園及び大学を除く。以下同じ。）に就学している障害児に、授業の終了後



又は休業日に、生活能力の向上のために必要な
訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与
することとされています。

このサービスは、支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことにより、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図るものとして、2012年4月よりスタートしました。

現在、箕面市には29の放課後等デイサービス事業所があります。その中のひとつ、箕面市障害者の生活と労働推進協議会が運営する「地域交流センターさんかくひろば」は、この制度がスタートした2012年8月に、箕面市内で2番目に開所し、今年満6年を迎えました。



箕面市内でもここ数年、療育プログラムや、運動プログラムに特化したデイサービスが増えてきました。しかし、さんかくひろばではそのようなプログラムを取り入れることなく、「障害のある子もない子も一緒に交流できる場を」という理念のもと「地域とつながる！人とつながる！新たな出会いの場」というコンセプトを崩さない運営を続けています。

そんなさんかくひろばの活動について、今回は管理者からお話を伺いました。

「地域交流センターさんかくひろばは、毎日平均 8～9 名程度の子どもたちが通所しています。

利用実人数は 33 名。登録だけで現在利用されていない方を含めると、もう少し多いですね。」



■前管理者から引き継いで 3 年目。常に子どもたちを優しく、時には厳しく見守る姿は、あたかも「さんかくひろばのお母さん」そのもの。設立当時からのコンセプトを崩すことなく、療育プログラムを取り入れない運営を続けているのは何故でしょうか？

◆「みんな、学校でいっぱい頑張っているんですよ。障害特性で、大きな音がダメだとか、集団で何かに取り組むことがダメとか、そういう子が増えているんです。疲れ果てて下校してくる姿を見ると、せめてここはホッとして息抜きができる、そんな場所でありたいと考えてしまいますね。」

決して療育プログラムや運動プログラムを取り入れている放課後等デイサービスを否定しているわけではありません。自分自身も親ですので、もし我が子に療育が必要なら、そして可能性があるのならきつと通わせると思います。でも、中学、高校と成長していくにつれて、否応なく自身の障害と向き合わなければならない、その時自分なら『無理してできないことに取り組まなくてもいい。この子の長所を伸ばしてあげたい』って考えると思うんです。得意なことがあれば、その分野を楽しみながら伸ばしてあげたいと思います。」

■とはいえ、特定のプログラムに特化しないさんかくひろばでの日々の取り組みはなかなか多様です。お菓子作りや工作など、定番のプログラムから、地域で音楽活動を展開されている方のご厚意による、月に一度のジャズコンサートなども開催されます。ハロウィンやクリスマス、バレンタインデーにちなんだ取り組みも欠かせません。

そんなさんかくひろばに通う子どもたちは、小学 1 年生から高校 3 年生と年齢層も多岐にわたっています。異年齢の子どもたちがひとつのフロアで過ごすわけですが……

◆「たしかにしんどいときもありますよ(笑) もうやめてくれ～って心の中で悲鳴をあげるときもあります。でも、異年齢かつそれぞれ違う障害を持つ子どもたちの集団だからこそ、ふれあいの中で変わっていく、成長していく部分があるんです。例えばね、低学年の子なんですけど、車椅子を見たのが初めてだったのじゃないかな。車椅子のお友達に対して、当初は『いや！いや！』と繰り返していました。でも本当にいやなのではなくて初めて見るものに対する自分の思いがうまく言葉にできなかったのじゃないかな。何度か会ううちに、いつの間にか『いや』と言うことがなくなりました。今はひとりの友達として一緒に過ごせています。」

■子どもたちひとりひとりと向き合う支援員の真摯な姿勢にはいつも感心させられます。けれども障害特性ゆえに、どうしても集団に入れない子や、物音に過敏な子もいます。

そんな子どもたちのために静かに過ごせる「セカンドルーム」を借りました。物音や集団生活に疲れてしまった子は、自分のペースでゆっくり過ごし、落ち着いたらまたさんかくひろばに戻っていきます。

◆「まず隔離ありきとは考えていません。でも、やっぱりしんどくなって泣き出したり、それを見て不安定になる子がいることで、連鎖反応から全体が落ち着かない雰囲気になってくることもあるんです。そんなときに、少し気分転換ができる場所があればお互いが楽になれるんです。

今まではしんどい子を車に乗せてドライブに連れて行ったりしていましたが、それは結局その子の居場所をなくしてしまってるのと同じなんですね。さんかくひろばに来ているのに、いつまで経ってもさんかくひろばの中に入れないのでは意味がありません。

セカンドルームのあり方については、まだ職員間で検討中です。今のところはしんどくなった子のクールダウン部屋です。ただ、ここでは少人数で過ごすからなのか、一様にとても穏やかに、その子らしさが出る場所だなと感じています。さんかくひろばでは個室にこもりがちな子が、こちらでは年下の子が遊んでいるプラレールと一緒に遊んだり、疲れてパニックを起こしてしまった子が、セカンドルームで過ごすうちに落ち着いて、折り紙でトイレマークを作ってくれるような気遣いも見せてくれます。集団の中とはまた違う一面が見えて、それも貴重な発見ですね。」

■ありがとうございました。では最後に、これからさんかくひろばの利用を考えている子どもたちや保護者の方に、一言メッセージをお願いします。

◆「プログラムや遊びを通し、異年齢の友達と活動する中で、学校や家庭とは違う一面が発見できる場所です。集団の中でいっぱい頑張ったあとは、さんかくひろばでゆっくり過ごすのもあり、他校の友達と遊ぶのもあり、クールダウンしてそれぞれのお家に帰ってほしいです。ゆかいなスタッフがたくさん待っていますよ！」

(さんかくひろば管理者 森 直美 聞き取り 池間圭子)



子どもたちが描いた似顔絵と、毎月みんなで作る季節の壁面創作です。

「地域交流センター事業」って？



さんかくひろばが、放課後等デイサービスを利用する子どもたちと地域で暮らす皆さんとが出会い、つながりを持てる場所となるように私たちが取り組んでいるのが、地域交流センター事業です。放課後等デイサービス事業と連携しつつ、異なったアプローチでの地域交流を行っています。

そのうちさんかくひろばのフロアにて行っている地域交流活動が、たこ焼き、駄菓子の販売コーナーと、それらを飲食できるカフェスペースの運営、そして地域の方に向けた催しの開催です。

★食でつながる ～たこ焼き・駄菓子販売とカフェスペース～

さんかくひろばのカフェスペースは地域の方に向けていつでも開放しています。そしてたこ焼きの調理や販売などはボランティアさんによって行われています。特にたこ焼きは放課後等デイサービスのサービス提供時間内で行われることが多く、子どもたちのおやつとして提供されることもあるため、利用者と最も関わりのある地域交流活動です。

地域の方がたこ焼きや駄菓子を買いに来られる以外に、運営しているボランティアさんと利用者の子どもたちとの間で交流が深まることも多いです。子どもたちからあだ名で呼ばれて慕われるボランティアさんや、お客さんの来ない時間に遊んでくれるボランティアさん、子どもたちひとりひとりの顔と名前を覚え、おやつの時間においしいたこ焼きを前もって用意してくれるボランティアさんなど、それぞれのやり方で子どもたちと関わり、交流を持ってくれています。また一方では、カフェスペースの運営に参加することで、家から出て地域とつながるきっかけにしている障害当事者のボランティアさんもいます。

★イベントでつながる ～もちつき・体験型イベントなど～

さんかくひろば内にて行われているもう一つの地域交流活動が、もちつきや体験型イベントなど地域の方を招いた催しの開催です。さんかくひろばのことを地域の方々に知ってもらい、直接来てもらうことで、普段からもさんかくひろばに親しんでもらうことを目的として行うこれらの催しは、放課後等デイサービスの開所日でない日曜日や祝日に行っています。当日はスタッフ総出で準備や運営を行うほか、地域のお餅つき名人さんや普段からのたこ焼きボランティアさん、法人内の別事業の職員の力も借りながら、さんかくひろばのスペースをめいっぱい使用し行います。地域の方以外にも放課後等デイサービスの利用者や卒業生、そして保護者の方も来られ、懐かしい顔ぶれと会うこともしばしばの、職員にとっても楽しい活動です。

★お祭りでつながる ～地域のお祭りへの出店～

地域交流事業の活動は、さんかくひろば内に留まりません。より多くの地域の方々にさんかくひろばを知ってもらうために、地域のお祭りに出店し、交流と広報を兼ねた活動を行っています。

出店するのはたこ焼きとふくろ釣りで、どちらも人気です。ふくろ釣りは特に子どもたちがたくさん集まって盛り上がり、中には景品のおもちゃを狙って何度も挑戦していく子もいます。これをきっかけにさんかくひろばに遊びに来てくれればと、ふくろ釣りの袋にはさんかくひろばのチラシを入れて持ち帰ってもらっています。

★ステージでつながる ～劇団でこじるしー・楽団まぜこぜん～

さんかくひろばの利用者の声から生まれた活動もあります。劇団でこじるしーと、楽団まぜこぜんがそうです。劇団でこじるしーは結成から5年ほどになる劇団で、放課後等デイサービスの卒業パーティーにて利用者とスタッフで演じた寸劇に始まり、子ども達の「またやりたい」の声に応える形で、スタッフ有志や地域の方も加わり公演を続けています。今年10月にも楽団まぜこぜんと合同で公演を行い、メイプル小ホールにて80人近い観客の前で堂々とした演技を披露しました。

楽団まぜこぜんもまた、放課後等デイサービス利用者の「さんかくひろばのみんなで音楽をやりたい」という言葉がきっかけとなり結成された集団です。3年目となる今年、メンバーも6人に増え、それぞれの個性、それぞれの音色を「まぜこぜ」に、箕面各所で音楽活動を行っています。でこじるしーとまぜこぜんは、どちらも障害の有無に関わりなく一つのチームとして作品を作るというスタンスを持ち、そこで生まれた作品をさんかくひろばの外に向けて発信し続けています。



地域とつながる、人とつながる場所として

私たちが目指すのは、さんかくひろばにいる子どもたちを取り巻く環境が「サービス提供者と障害当事者」という関係性だけで閉じてしまうのではなく、地域社会と自然に関わり支えあえるような関係ができること、そしてさんかくひろばという場

所が、障害のある人もない人も「地域とのつながりの中で生きていく」、そんな生き方のきっかけになることです。私たちさんかくひろば職員一同、これからもこの場所で生まれたつながりを大切にしながら、それらをより広げられるよう地域交流活動が続けていきます。



(地域交流センターさんかくひろば 賦句達郎)

現在、推進協は3つの事務所に分かれて業務を行っています。

そのため、「ふだん利用している事業以外の事務所にどんな職員がいるのかわからない」

「新しい職員も増えているようだけど、よくわからない」といった声も聞かれます。

ファースト・ランでは、長らく巻頭で職員が順番に挨拶文を綴ってきましたが、

この「スタッフリレーコラム」も103号をもって終了しました。

そのため今号より新企画といたしまして、推進協の職員インタビューを掲載します。

読者の皆さんには、日頃の業務だけでは見えてこない職員の意外な一面が発見できるかも

しれません。また、「この事業はあまり知らないけれど、こんな職員がいるんだなあ」と

知っていただく機会になればと思います。

第1回インタビューは、新たに事務局次長となったこの人です。

菊池康治です！よろしくお願いします。



Q : まずは「基本情報」からお聞かせください。

A : 現在43歳です。

趣味特技は特にはないのですが、お酒を飲むのが好きです。なかでも焼酎や泡盛等がお気に入りです。

休日は基本、飲みに出るか家でゆっくり過ごすかです。

料理はあまりしませんねー。

Q : 続いて推進協就職の経緯と動機を教えてください。

A : 推進協に入る前はケーキ屋でケーキ職人を目指していました。しかし、ちょっと難しいと感じて別の仕事を考えていたところ、知人から推進協がヘルパーを募集しているということを聞いて、まずは無資格でもできるグループホームの世話人として仕事を始め、その後ヘルパーの資格を取って登録ヘルパーとしても勤務するようになりました。

Q：推進協に入ってから主にはどんな業務を担当していますか？

A：グループホーム世話人および登録ヘルパーとして約2年勤務したのちグループホーム新規開設に合わせて常勤職員へと声をかけていただきました。

ただ、常勤初年度は居宅とグループホーム兼務で、常勤2年目よりグループホーム専属になりました。

登録ヘルパー時代を含めると推進協勤務は今年で10年目になります。

そして、2017年4月からはグループホーム部門の管理者、加えて今年4月からは推進協全体の事務局次長の職責も担っています。

Q：重責を担ってますね！職務での悩みや喜びはありますか。

A：悩みは尽きませんね---。グループホーム事業の管理者になりましたが、自分自身の仕事で手いっぱい「全体を管理」できていないと感じています。他の職員への作業の振り分けもうまくできていなくて、迷惑をかけているのではと気に病んでいます。管理者としての力量を高めなくてはなりませんね。

グループホームでの仕事を通して、入居者さんの成長や新たな発見が見えた時には喜びとやりがいを感じます。多くの世話人さんもそうだと思います。

入居者さんがそれまでできなかったことができるようになる、その過程や場面に立ち会えるのは嬉しいです。

Q：それでは最後に、今後の抱負をひとことお願いします。

A：専門職なのに「未だにプロ意識がない」と感じています。最初から意識的にこの仕事を選んだわけではなく、「誘われたからこの仕事にかかわり、なじんだのでそのまま続けている」というのが現状です。それゆえ、あまり成長できていないと感じます。このままでは駄目なので、利用者と共に悩み共に成長できるようなプロを目指してこれからも頑張ります！！

（インタビュアー 福永英司）

カエルのうた

其の22～徐々に暮らしやすく



何度か通ううちに段差を改修して無くしてくれたり、スロープを準備してくれた所がある。

たまに行く居酒屋は店内が段差だらけなので、店員さんに抱えてもらって入っていた。ある日行くと、店の奥からスロープを出してきて設置してくれた。抱えてもらっても入れるけれど、スロープの方が気分が良い。客として尊重されている気がする。家の近所であればしょっちゅう行けるのに、残念！

カラオケ店でもそうだった。入口の所が階段になっていたの、裏口から倉庫のような所を通して入っていた。まっ、入れるだけましかと思っていたら、ある日階段の所にスロープが設置されていて、正面から入ることができた。入れるだけましとはいえ、裏口から入ると招かれざる客という感じがして、あまり良い気分はしなかった。正面から入れるようになったというだけでまた行きたくなる。

いつも行く銀行もそうだ。以前は段差があって少し遠回りして入っていたが、今は改修されて遠回りしなくても入れるようになった。もし車イス利用者がもっと行くようになれば、将来的にはもっと便利になるだろうな。

段差も困るが私の場合片手が使えないので、障害者用のトイレのストッパーのついていない扉はかなり困る。動く方の手で扉を開けて入ろうとして、押さえている手を離すと扉が閉まって入れない。扉を押さえたままだと、リモコンの操作ができないから車イスを動かせない。職場の近くにある公園の障害者用トイレがそうだった。手を離すと閉まってしまうから、かなり出入りに苦労した。箕面市は障害者が常に介護者と一緒に行動していると思^{おも}っているのかな。

箕面の市営駐車場にも驚いた。1階に障害者用トイレがあるので使うことが多い。ある日利用しようとして行くと掃除中で使えなかったの、エレベーターで2階に行き利用しようすると普通のトイレだった。何とか使えるだろうと思い入ったが段差があり、入ることはできたが出ることが難しい。どうやって出られたかは忘れたが、出られた時には疲れ果ててしばらくは茫然としたままだった。市営駐車場ができて何年経つだろう。

そんな所もあればこんな所もある。ある日箕面にある「木曾路」というお店の障害者用トイレの扉にストッパーがついておらず、出入りに非常に苦労したことがある。そのことをお店の人に告げ、ストッパーをつけて欲しいと頼んだ。そして数ヶ月後また「木曾路」に行きトイレに行くと、ストッパーが付けられていた。ちゃんと客の要望を聴き改善する。当たり前のことかもしれないが感心してしまった。機会があればまた利用させてもらいたいと思っている。

(武藤芳和)

パンのみみ

その 34 ～ バス物語り(後編) ～



先回のコラムで、箕面市内全てのバスが車いすで乗車可能になったことを知り、うれしくて即利用してみたら不快体験にみまわれた。内容は、車内の無線で「車イスが乗ったから交代遅れる！」と大きな声で繰り返されたり、何時に帰るか執拗に尋ねられたり、事前に乗車連絡してもらわないと困る、というニュアンスで迫られたというもの。その後この体験を全体化するため、差別事象として箕面市に相談にいったところまでお話した。

それから待つこと1ヵ月。京都銀行のCMくらい長いように感じられて、忘れ去られたんじゃないかとそわそわしていた。ある日、交通政策課の担当者から「お待たせして申し訳ない。バス会社から不適切な発言で今後は注意すると返答があった。事前連絡の必要は必ずしもなく、ただ先に車いすのお客様がおられた場合は乗車できないし、停留所によってはバリアがあって利用できない。そのようなご不便を避けるため事前連絡をおすすめしているらしい」と、ご連絡をいただいた。同時に「バス会社の方が直接お客様に謝罪したいようなので、連絡先を教えてもいいか」と確認された。謝罪ではなく改善を希望していただけないので、少し居心地の悪さを感じたけれど断る理由もないので承諾した。するとすぐにベルが鳴った。阪急バス窓口の方は開口一番「箕面市に言われたので電話した」と。ふえ？突然の拍子抜け。「大きな声と言われても何デシベルか分からないので判断できない…運転士が腰痛な人もいる…」と話が続き、ついさっき箕面市から説明があった乗車できないケースを並べ「なので連絡してほしいんですよ」と延々話し続けている。無理解な客を諭すような言い方で、謝罪の気持ちなんて微塵もなかった。(完全にクレーマー対応なんだな)と感じて暗い気持ちがずんずん広がり、頭にどんどん血が上っていき耳がじーんと熱くなる。止まない弁明を遮り、「不利益を被ったとしてもわたしは自由にバスに乗りたいんです！そのために運動があってバリアフリーが進んできたんです。全便車いすで乗れる車両なんだから、事前連絡を必ずしなければいけないわけではないですね？内部規則としてどうか確認していただけなんです！！」と、語気荒く言い返した。「そ、そうですね、事前連絡必須の決まりはありません。すみませんでした…」途端にひるんで声のトーンが変わる。この人とは大事なことが議論できない。諦めて早々に電話を切る。悲しさだけが静かに残った。

箕面市が良かれと思ったやり取りは、事業者側であるバス会社に本意は伝わらなかった。悔しさと腹立たしさが頂点に立って出たわたしの反応も、適切ではない。怒った勢いでその場をやり通しても、一過性で終わる。脈々と続く対話が、住みやすい街づくりへとつながることに他ならない。一緒に考えてもらう土俵に立つ、できるだけ見ている方向を近づける、という関係性をどう構築していけるのか、この一件以来ずっと考えている。もっと気楽に、おせんべいをほおばってお茶でも飲んで語りたいな、出てくる答えはそんな風景ばかりなのである。

(今井 雅子)

★私たちは地域でこんな活動をしています★

ヘルパー派遣事業



地域で暮らす
障害のある方に
在宅支援や
ガイド支援を
行っています。

地域交流センター事業



放課後等デイサービス
「さんかくひろば」の
運営を通じて、地域の
皆さんとの交流を図り
ます。

グループホーム事業



自主性を大切に、
様々な手助けを行
いながら地域生活
を支援していま
す。

相談支援事業



生活の中でのさまざ
まな困りごとについ
てお話を伺い、必要
な情報をお伝えして
いきます。

会員募集

推進協は、今後も障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりに向けた活動を続けていきます。

そんな法人の理念、活動方針にご賛同いただける方を引き続き募集いたします。

年会費

団体会員 : 1口 10,000 円

個人正会員 : 1口 2,000 円

個人賛助会員 : 1口 1,000 円

■お問い合わせは(072)723-3342 (担当:木下)

■当法人のご案内■

ご相談、ご依頼は下記事務所へお問い合わせください。



【編集後記】

もうすぐクリスマス。ハロウィンもクリスマスもイベントとして定着していますが、家族で過ごすクリスマスっていいな、とアメリカのドラマを見て思いました。アメリカ人は、感謝祭からクリスマスの時期で太るそうです。日本のお正月太りと同じですね。それでは良いクリスマスを！ (うさぎ)

編集／特定非営利活動法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会

〒562-0001 大阪府箕面市箕面 4 丁目 8 番 30 号 電話 072-723-3342 FAX072-723-6506

E-mail: JDW07270@nifty.com 郵便振替: 00990-4-116066 公式 HP: http://www.suishinky.com

発行人／関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4階